

浜松市立葵西小学校 活動報告

☆ 6年「 I can swim. 」 Hi Friends2 Lesson3-2

(1) 導入

① あいさつをする。

② How many bom! ゲームをする。

じゃんけんの応用ゲームで出した指の数を早く言った方が勝ち。クラスの友達とたくさんコミュニケーションを取ろうとすることで、意欲的に学習に参加するようにさせる。

(2) 活動

① ポインティングゲームをする。

○ 自信をもって活動に臨めるように最初に「I can ~」「I can't ~」の表現をたくさん使うポインティングゲームをする。

※ swim、play baseball、play the piano、cook など、play をつけるものや音楽には「the」をつけることを確認する。

② Hi Friends2 P.12 「Let's chant」をやる。

○ 音声教材 Let' Chant "Can you swim?"を聞き、ピクチャーカードを見ながらチャンツする。

③ ○×クイズをする。

担任や子供のできること・できないことを予想して○・×（教室の左右）に分かれる。担任や子供に Can you ~?と尋ねて答えを確かめる。

Can you play soccer? Yes I can. / No I can't.

○ 活動をスムーズに進めるために、活動で使う表現を黒板に掲示する。

④ Who am I クイズを作り、友達とクイズを出し合う。

前時にインタビューしたことをクイズにする。

A. I can swim. I can't ride a unicycle. Who am I?

B. Are you Hiroki?

A. That's right.

B. Thank you!

○ 活動への見通しをもたせるために、デモンストレーションを行う。

○ How about you?や Thank you.などの表現やジェスチャーもコミュニケーションをとる際に大切な表現であることを伝え、積極的に使えるように促す。

- たくさん正解すると、ポイントをもらえるようにして、積極的にコミュニケーションを取り、「できる」「できない」の表現に慣れ親しめるようにする。



(3) 振り返り

- ① 本時の活動を振り返ってワークシートに記入し、発表する。
- ② あいさつをする。

(4)

☆ 成果と課題

- コミュニケーション活動の時間を多くとることで、いろいろな子供と積極的にコミュニケーションを取ることができたり、表現に慣れ親しむことができた。
- 「Smile」「Listen」「Eye to eye」「Clear voice」を意識して、コミュニケーションをすることができた。
- 「How about you?」「Thank you!」などコミュニケーション活動を取る上で必要な言葉を進んで使うことができた。
- 英語で何と言えれば分らないと、すぐに日本語で話そうとしてしまう。英語で伝えようとしたりジェスチャーを使ったりすることで、コミュニケーションを取るようにさせていきたい。
- 単元で扱う表現に慣れないまま次の単元へいってしまうことがある。チャンツやコミュニケーション活動をたくさん行い慣れ親しませたい。